

審議会等の会議の記録

会議の名称	令和6年度第1回伊勢崎市子ども・子育て会議
開催日時	令和6年6月28日(金) 午後2時00分から午後3時00分まで
開催場所	市役所東館3階 災害対策室
出席者氏名	【委員】 古作委員、江原委員、星野委員、丸橋委員、久保田委員、柳澤委員、小暮委員、菊入委員、佐野委員、中西委員、森村委員、荻原委員、宮崎委員、西川委員、高橋委員 【関係者】 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所小林支社長、同竹澤主任研究員 【市職員出席者】 石橋福祉こども部長、山本福祉こども部副部長、森村子育て支援課長、清水係長、高橋主査、谷主査
傍聴人数	0人(公開)
会議の議題	(1) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係る ニーズ調査の結果について (2) 第3期子ども・子育て支援事業計画について
会議資料の内容	資料1 子ども・子育て会議の概要 資料2-1 子ども・子育て支援事業計画について 資料2-2 子ども・子育て支援事業計画について 資料3 第3期子ども・子育て支援事業計画の 施策の体系について 資料4 第3期子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール (R6.6.28時点) 別冊 伊勢崎市子ども・子育て支援に関する ニーズ調査結果報告書(第3期)

会議における
議事の経過
及び発言の要旨

会議の経過は以下のとおり

《 1. 開 会 》

(事務局) 開会及び会議の出席者の報告

《 2. 挨拶 》

(会長) 挨拶

《 3. 議 事 》

(令和6年度から新たに委員となった方の自己紹介)

(1) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果について

(事務局) 資料別冊の説明

(2) 第3期子ども・子育て支援事業計画について

(事務局) 資料1～4の説明

(会長)

資料2-2について、現在、13事業が行われており、新規事業の⑭から⑰までは今後計画していく内容と理解しているか。

(事務局)

第2期子ども・子育て支援事業計画に記載しているものが①～⑬までの13事業である。

国から各自治体で策定する第3期計画において、この13事業に加え、⑭～⑰の6事業についても量の見込みを算出し、それに対する受け皿確保のための目標値の掲載について検討するよう通知が出ている。なお、⑭～⑰の事業のうち一部は既に実施している。今後の実施に向けて研究・検討している事業もある。

(会長)

⑭～⑰は、既に始まっているものもあるし、これから計画するものもあるということか。

(事務局)

はい。

(委員)

計画の量の見込み等々は毎年度末に示していただいているが、計画をどのように実行し、目標値がどのように達成できたのか、足りなかった部分の洗い出し、それに対しどうアプローチしていくかという視点を入れたほうがいい。

最初のところにPDCAを回していくとあったが、「今年度は

こうだった」で終わりにするのではなく、不足部分に対する追加、変更などの視点を入れて、第3期計画を立てていただければありがたい。

先般、研修で「こども誰でも通園制度」について勉強し、3パターンくらいの実施方法があると聞いた。伊勢崎市はどのパターンで行うのか、早めに示していただきたい。

それに対する人員の確保が必要になるが、今、保育士の確保は全国的に大変な状況である。そこをどうするのかと毎年言っているが、10年間、「研究、検討します」との文言で、10年検討してアクションは何も起こしていないのが現状だ。

他の自治体では様々なことを実施している。人員を確保しなければ質の担保ができず、子どもの安全が守られない。

どこの施設も人員確保が困難なので、「誰でも通園制度を始めます」だけではなく、事業の実施に対して人をどう手当てしていくかの視点を入れていただきたい。

(会長)

私もそう思う。「こども誰でも通園制度」は必要で、良いことだが、私の大学でも保育の学生が減っている。保育を選ぶ学生が少なくなっているのが現実であろう。実習先の園長らも「人が足りない」と常に言っている。

人員確保については、指摘のとおり質の保証と、子ども預かる責任もあるので、人員確保のシステムを市としてつくっていただくありがたい。人件費がかかるので大変と思うが、ぜひ具体的な方法を考えてほしい。

(委員)

6月17日に、市長が同席した市の総合計画策定の会議があったが、参加者は主に環境整備的な施策について意見を述べていた。

市の総合計画と、この会議はどこでどのようにリンクしているのか。6月17日の総合計画策定の会議との関係性を知りたい。

(事務局)

伊勢崎市総合計画は市が目指すべき一番の目標を掲げた最上位の計画で、産業、環境、教育、福祉など市全体の内容となっている。

子ども・子育て支援事業計画は、最上位の総合計画の目標を達成するために、子ども・子育て分野における個別具体的な政策等をまとめた計画である。

(会長)

本日頂いた資料のいろいろなところについて皆様と議論しなかったが、会議内で全部読む時間がない。

次回会議からは、せめて2、3日前に資料を頂くことができれば、質問や提案などができると思う。それは可能か。

(事務局)

次回会議では2、3日前には皆さんの手元に資料が届くよう対応する。

(会長)

委員の皆さんは貴重な時間の中で集まっています。少し前に資料を頂ければ、事前に目を通すことができ、議論を深められると思う。

(委員)

計画作りに当たり、地区と量の見込みを今後詰めていくという話だったが、いつも頂いている資料は箇所数だけなので、地区ごとに具体的に分かれば良いと思う。

今、子どもが増えている地区は赤堀と境だと思うが、赤堀地区で保育園に入れない子は、前橋などの他の地区に申込みしていると聞く。そういうことも踏まえて、地区名が入ればより良いと思う。

多様性に柔軟に対応するという点について、アンケートした方の中には外国籍の人はいないと思う。アンケートが行っているかも分からない。

(事務局)

アンケートは無作為抽出である。

(委員)

市は共生と言っているが、そこに関してあまり触れられていない。多様性と言うのであれば、そこも考えないといけない。

伊勢崎市は、市内で生まれてそのまま残り、祖父母も近くにいるという家庭が大半だと思う。市外から転入する方もいるが、数年で市から出ていく人がほとんどである。

そのためか、家族や祖父母、友人などの近くにいる人に頼る傾向がある。前回頂いたアンケート結果の資料でも、相談先としての行政の割合がかなり低く、「知らない」「あっても利用しない」などの回答が多かった。その点を踏まえ、どうアプローチしていくか。

例えば、保育所や小学校で「情報としてもらっているものを見ている」という回答があったので、来年度以降はそういうところにできるだけ資料を配布するなど、検討していただければと思う。

また、私の周りでは、金銭的な補助を望んでいる方が多い。少しでも有料になると使わないので、できるだけ補助ができるような環境を考えてほしい。

(会長)

伊勢崎市には待機児童はいないが、自宅から遠い保育園に預けなければならないのでは、保護者の負担が大きい。そういう部分の地区ごとの数を調べることは可能か。

(事務局)

現状は示せると思う。

(会長)

分かる範囲でいいので、保育所、幼稚園に預ける際の、地区ご

との細かなところを示していただければと思う。

金銭的な補助についても、少しでも補助してあげられるといいと思う。

(委員)

健康推進員を務めているが、来年4月から、東、境、赤堀地区の保健センターがなくなり、1カ所に統合される。

今でも健診は2カ所に分けて実施している状態で、保護者に負担をかけている。これまで使っていたセンターの跡地の使い方ははっきりしておらず、相談窓口は各支所に置かれるということだが、保健師に相談したい時、子ども連れで支所へ行くのは難しい。

赤堀地区の保健センターは、小さい子どもを連れて保健師と相談している姿をよく見かける。来年4月からそういう気軽に相談できる場所が少なくなることについて、市はどう考えているのか。

相談窓口・健診が1カ所になると、駐車場も足りないかもしれない。乳幼児の保護者にとっても乳児にとっても大きな負担になる。

赤堀地区の相談窓口はできてそれほどたっていないが、閉鎖した後の使い道はどうするのか。支所の相談窓口には、子どもたちを遊ばせるスペースを取っていただけるのか。

(会長)

今日は担当課がいないため、次回、分かる範囲で情報を頂けるとありがたい。

(その他の意見)

- ・手をつなぐ育成会に関する意見 … 1件
- ・健康保険証の在り方、医療のシステムに関する意見 … 1件

《 4. その他 》

(事務局)

次回の会議は9月27日(金曜日)を予定している。正式な開催通知は後日送付する。

《 5. 閉 会 》